

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



標高80mほどの高台にある造成から50年ほど経つ団地。高齢化率26.5%
団地内には大学病院や教育施設をはじめとした生活環境が整っている。

取組のきっかけ

高齢者が「安心して住み続けられる地域」を目指して、老人クラブ内で検討。有志で話し合いを重ね、身の回りのちょっとした困りごとを、できるときに、できる人が、できることをお手伝いすることにした。

取組の目的

- 高齢になっても自立心を持って自宅での生活を続けられるように、できないところを支援していきたい
- 地域を支えるのは地域の高齢者。「できない」を自分達の「できる」で支えたい
- できるときに、できる人が、できることで支えあうことが、住みやすい地域につながる
- 地域とのつながりを持つことの大切さを知ってもらいたい

これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年6月	老人クラブ有志2名でみんサポ応援講座受講。
令和元年12月	市単老会長交流研修会にて支えあい活動補助金紹介と帯迫老人クラブの事例発表を聞く
令和2年2月	支えあい活動補助金について生活支援コーディネーターの説明を聞き、メンバーで検討していく
令和2年3月	支えあい活動補助金の申請準備を行う
令和2年4月1日	老人クラブの有志にてボランティアグループを設立。支えあい活動補助金申請
令和2年5月16日	ボランティア団体として社会福祉協議体へ登録。
令和3年5月	代表交代（設立時から一緒に活動していたメンバーに代表引継ぎ）
	利用者が亡くなったり、転居された方もいた為、活動回数は少なくなっている。町内会だよりで活動を紹介している。活動員も高齢化してきており、後継者育成も必要となってきた

活動の概要

◆**活動内容**：掃除、ごみ出し、買い物、庭の手入れ、外出付添、家電・家具の移動など

◆**活動範囲**：鹿児島市桜ヶ丘5丁目地内

◆**利用料**：無料

◆**対象者**：地域内の高齢者世帯

◆**構成員**：5名（男性3名、女性2名）

◆**利用人数**：6名

◆**活動に関わった人・団体**：老人クラブ

民生委員

地域包括支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者から感謝されることが活動の励みになる。

〔課題〕

- 活動員の高齢化
- 支えあい活動の輪の広げ方